

信浄寺だより

91号 二〇二五年四月

お誕生

四月八日は、花まつりです。改めて聞くと「そういえばそうですね」という方が多いと思います。仏教系の幼稚園や学校に通っていた人は、「懐かしいね」ぐらいでしょうか。花まつりは、お釈迦さまお誕生をお祝いする日です。でもほとんどの方は、忘れていきます。その代わりにイエスキリストの誕生を祝うクリスマスは、絶対に忘れていません。クリスマスを楽しむことが悪いとは言いませんが、花まつり（灌仏会）かんぶつえも思い出してください。

仏事というと暗いイメージでしょうか。お葬式や亡くなった人の年回法要を考えるのかもしれませんが。結婚式はお寺でもできるのですが、頼みに来られた方はいません。子供が誕生して神社へお参りに行く人が多いようですが、お寺へ初参式に来られる方はまだまだ少ないです。お待ちしております。

お寺では、一年で一番大きな行事といえば「報恩講」です。親鸞聖人の命日のご縁に勤めさせていただきます。やっぱり亡くな

った日だと思いませんか。年回の法事も亡くなった日をご縁にしています。しかし法事というのはただ亡くなった人を追悼することが目的ではなく、浄土へ往生されたことを祝う意味もあります。浄土真宗の教えでは、浄土へ生まれて往くことが大事な目的です。先立たれて年数の浅い人に対しては祝うというより、悲しみの方が優先するでしょう。そのため三回忌までは白いろそくを使います。七回忌からは赤いろそくを使うのは浄土へ生まれてのお誕生日を祝う意味があります。現代の私たちには、わかりにくいのですが、三回忌とは、数え年三歳を迎えるということです。通常は、五十回忌まで法事を勤めます。昔は五十回忌を迎えるのは、たいへんめでたいということで、盛大にお祝いをしたそうです。ただお誕生五十年がめでただけではなく、残された私たち、五十年の間、仏法に遇わせていただいたことを感謝する意味もあつたのです。一般には五十回忌は孫たちが中心になります。子供のころに祖父母に聞いたお話を思い出しながら、あの時のお話はこんなことを子孫に伝えたかったんだなと感じることでし

よう。私も昨年、祖父の五十回忌を勤めさせていただきました。今、自分が亡くなりお浄土へ生まれさせていただいて、残している家族や縁のある人たちに何を伝えられるのかと思います。自分はただ死んでいくのではない、浄土へ生まれて往くということを伝えなければと思います。死んで終わりではなく、お誕生ということこそを是非考えてください。

親鸞聖人の命日に合わせて行っているのは、報恩講ですが、この世界へのお誕生を祝う日を降誕会（ごうたんえ）といって五月二十一日となっています。本願寺等では法要が勤められております。機会があれば是非ご参拝ください。

親鸞聖人は、この世の命が終わってもお浄土へ生まれて私たちを待つと言われました。

この身は、いまは、としきはまりて候へば、さだめてさきだちて往生し候はんずれば、浄土にてかならずかならずまぢまゐらせ候ふべし。

『親鸞聖人御消息』

御消息とはお手紙のことで、親鸞聖人が各地の門弟に送られたものです。

行事予定

永代経法要（総永代経）

五月十二日、午後二時 七時

十三日 午後二時

永代経法要は先だった人たちをご縁として、私たちが法に遇わせていただく大事な法要です。浄土三部経のお勤めと、ご法話も是非ご聴聞ください。